

身の回りで見つかった外来植物

図鑑で調べてみると、キク科の植物が多いことがわかりました



セイタカアワダチソウ(キク科)は、秋になると稲穂のような黄色い花をつけます。名前の通り、丈の高くなる植物で、1mを超えます。空き地などでよく見られます。



夏から秋にかけて花をつけるコスモス(キク科)。品種も多く、いろいろな色があります。

身の回りの植物を図鑑などで調べてみると、もともと日本になかった植物が意外に多いことがわかります。海外と交流をする中で日本に伝わり、繁殖した植物を「外来植物」といいます。私たちの学校の近くでも、いろいろな外来植物を見つけたので、写真と一緒に紹介します

参考 『散歩で見かける雑花・雑草図鑑』 写真 鈴木庸夫 解説 高橋冬 創芸社・三栄書店 刊



ブドウに似た、赤紫の果実をつけるヨウシュヤマゴボウ(ヤマゴボウ科)。



オオアレチノギク(キク科)。



牧草として利用する目的で渡来したムラサキツメクサ(マメ科)。



鋭いとげがあるワルナスビ(ナス科)。



香りが強いオシロイバナ(オシロイバナ科)。